

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	クリーン搬送機器第一工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊橋市三弥町字元屋敷150,他22筆	構造	S造
用途地域	用途地域:工業地域、防火指定:第22条	平均居住人員	478人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年6月10日
敷地面積	228,298 m <sup>2</sup>	作成者	大池 史門
建築面積	5,156 m <sup>2</sup>	確認日	2022年6月10日
延床面積	10,048 m <sup>2</sup>	確認者	清谷 太一



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%) ☆☆☆☆☆ (60%) ☆☆☆☆☆ (80%) ☆☆☆☆☆ (100%) ☆☆☆☆☆ (100%超)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	100%
③上記+②以外の	100%
④上記+	100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	2.1
空気質環境	3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.4
耐用性	3.0
対応性	3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 2.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 1.9

建物外皮の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	2.0
効率的	1.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.0
非再生材料の	2.9
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

地球温暖化	3.0
地域環境	2.5
周辺環境	2.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>21.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	21.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	21.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>													
<b>Q1 室内環境</b>													
<b>1 音環境</b>													
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能													
2 界壁遮音性能													
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
1.3 吸音													
		壁、床、天井のうちに面以上に吸音材を使用している。		0.1	3.2	0.15	-	-	-	-	-	-	3.2
<b>2 温熱環境</b>													
2.1 室温制御													
1 室温													
2 外皮性能													
3 ゾーン別制御性													
2.2 湿度制御													
2.3 空調方式													
<b>3 光・視環境</b>													
3.1 昼光利用													
1 昼光率													
2 方位別開口													
3 昼光利用設備													
3.2 グレア対策													
1 昼光制御													
3.3 照度													
3.4 照明制御													
<b>4 空気質環境</b>													
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質													
		F☆☆☆☆をほぼ全面的に使用している。		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	3.3
4.2 換気													
1 換気量													
2 自然換気性能													
3 取り入れ外気への配慮													
4.3 運用管理													
1 CO <sub>2</sub> の監視													
2 喫煙の制御													
<b>Q2 サービス性能</b>													
<b>1 機能性</b>													
1.1 機能性・使いやすさ													
1 広さ・収納性													
2 高度情報通信設備対応													
3 バリアフリー計画													
1.2 心理性・快適性													
1 広さ感・景観 (天井高)													
		事務室の天井を2.7mとしている。 自動販売機を設置したりリフレッシュスペースを設けている。		0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-	3.4
2 リフレッシュスペース													
3 内装計画													
1.3 維持管理													
1 維持管理に配慮した設計													
		内外共に防汚性の高い建材を使用している。		0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-	-	3.0
2 維持管理用機能の確保													
<b>2 耐用性・信頼性</b>													
2.1 耐震・免震・制震・制振													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													
2 免震・制震・制振性能													
2.2 部品・部材の耐用年数													
1 躯体材料の耐用年数													
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													
		主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用としている。		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													
2.4 信頼性													
1 空調・換気設備													
2 給排水・衛生設備													
3 電気設備													
4 機械・配管支持方法													
5 通信・情報設備													

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0		
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.37				2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-				2.4
LR1 エネルギー					-	0.40				1.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=1	3.0	2.0	0.57				2.0
4 効率的運用				0.2	1.0	0.26				1.0
集合住宅以外の評価				1.0	1.0	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	-	-				
4.2	運用管理体制			3.0	1.0	1.00				
集合住宅の評価				-	-	-				
4.1	モニタリング			-	-	-				
4.2	運用管理体制			-	3.0	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.9	0.63				2.9
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		3.0	1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げが容易に分別可能。		3.0	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	1.00				
3.2 フロン・ハロンの回避					-	-				
1	消火剤				-	-				
2	発泡剤(断熱材等)				-	-				
3	冷媒			3.0	-	-				
LR3 敷地外環境					-	0.30				2.7
1 地球温暖化への配慮		①			3.0	0.33				3.0
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					1.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	建物利用者の駐車場・駐輪場を敷地内に確保している		5.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	2.6	0.33				2.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	2.0	0.40				
1	騒音	独自			3.0	0.50				
2	振動	独自			1.0	0.50				
3	悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制				3.0	0.70				
2	砂塵の抑制				1.0	-				
3	日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
			外構緑化:21.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 クリーン搬送機器第一工場

計画上の配慮事項	
総合	耐用年数の高い材料を採用することで、ライフサイクルコストの低減に努めている。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	耐用年数の高い内装材、配管材料を採用している。 また、機器設置に対して耐震性を考慮した施工を行っている。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に調和させ、景観に配慮している。
LR1 エネルギー	LED照明器具を採用し、省エネルギーに配慮している。
LR2 資源・マテリアル	発泡剤を用いた断熱材を使用しないことで、オゾン層破壊を防止している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しないことで大気汚染防止をしている。
その他	